

2019年度事業報告



森の工作教室(きのこプロジェクト)



活動レポート

①福祉相談事業

子育て相談(自主事業)

活動の想い

安心して子どもを育てられる地域を作りたい！

直接の成果

悩みや困りごとを抱えた人が相談をする。

短期成果

必要な時に相談できる関係ができる。

長期成果

問題解決へ向け、自ら行動が起こせるようになる。

【担当責任者】 法人事務局として実施

【活動概要】

子育て・女性問題に関わる内容について安心できる環境で相談者の気持ちに寄り添う傾聴を中心に、自己による課題解決へ向けての支援を行っています。必要により関係機関への紹介を行います。

【活動実績・得られた成果】

法人全体で行う困りごと相談業務として子育てについても対象としています。今年度はたけのこプロジェクトで実施した月言カレーの場で、相談を行うことができました。

●残された課題・新たな課題

困ったときに気軽に相談できる場や機会、日頃からの関係づくり。

②高齢者・障害者に対する地域生活支援サービス事業

タイムケア事業(自主事業)

直接の成果

スタッフが生活の援助を始める。

短期成果

生活の連続性が保たれたり、やりたいことができ始める。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

【実施回数】 282回(247.5時間/年)

【活動概要】

介護保険対象者および障害福祉サービス対象者に対し、制度のルール等の理由で対応できない部分に柔軟に対応する事業です。

【活動実績・得られた成果】

介護保険対象者及び障害福祉サービス対象者に対し、制度のルールなどで対応できない部分に柔軟に対応しています。高齢者では主に介護保険では対象にならない大掃除や草取り、水やり、移動支援を中心に行いました。障害者ではホームヘルプなどの隙間を埋めるサービスとして実施しました。

分かち合い事業(自主事業)

直接の成果

住民スタッフが生活のお手伝いを始める。

短期成果

生活の中の困り事が改善し始める。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

【実施回数】 32.5時間/年

【活動概要】

介護以外のちょっとしたお手伝いについて、住民同士の助け合いで柔軟に対応する事業です。

【活動実績・得られた成果】

掃除、草取りの他、ゆめじろうの建物・車両清掃・不燃物処理等を(ひるじろう就労部門・生活介護に委託)を実施しました。

●残された課題・新たな課題

活動会員の確保とコーディネート機能。

③相談ケアマネジメント事業

ゆめじろう居宅介護支援事業所

(介護保険居宅介護支援事業)

活動の想い

見慣れた風景や環境の中、その人らしい暮らしができることを応援していきたい

対象

町内在住(近隣町を含む)
高齢者と家族

直接(～1か月)の結果

生活や介護に関する困りごとや、暮らしにくさに対して、サービスの利用や暮らし方について相談できる。

短期(～3か月)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関との関係づくりが始まる。

中期(～1年)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関とつながっている。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活が支援を受けながら継続し、ひとりではないと感じながら生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。



コロナウィルス感染症対策として毎日の打ち合わせをリモートで実施

●83人／月平均 延べ996人／年間(居宅介護支援602人、予防316人、総合78人)

【担当責任者】 西川百合

【活動概要】

介護を必要とする方が、自宅で適切に介護保険サービス利用ができるように、心身の状況や生活環境、本人・家族の希望に寄り添い、その人らしい生活ができるようにケアプランの作成やサービス調整を行います。暮らしにくさなどの相談の場合には、介護保険制度や他機関の案内や提案を行っています。

【2019年度活動目標】

急ぎのケースや困難ケースについて保険者・地域包括支援センターからの依頼を積極的に受け入れていく。また迅速な対応に努め、他機関との連携を継続的に行っていくことで信頼度をあげ、依頼数の増加を目指す。

【活動内容・得られた成果】

他機関との信頼関係を築くため、必要時の情報提供や相談・面談・会議開催などを行ってきた結果、急ぎや困難ケースといった新規依頼を多く受け入れることができた。また、利用者宅への訪問時には、介護保険の利用に限らず、家族に関わる(例えば障害や家族の就労問題など)相談を受けたり、発見したりするなど、高齢・障害・社会保障に関することなど幅広く知識が必要であることを実感することも多く、高齢・障害の枠を外したケース検討会を通して視野が広がったと共に、知識の積み重ねにより対応力が身に付き、適切に対応ができたり必要機関につなぐことができるようになった。

ゆめじろう相談支援事業所

(障害者総合支援法) 知多南部相談支援センター(委託)、一般相談支援事業、特定相談支援事業、(児童福祉法) 障害児相談支援事業

活動の想い
障害のある人と家族が安心して暮らせる社会や地域を作りたい！

対象
武豊町・美浜町・南知多町
在住の障害者と家族

活動内容
障害児・者の生活・サービスに関する相談援助。
協議会の運営。

直接の結果(～1か月)
相談を行い、必要な情報が得られたり、サービス利用が始まる。

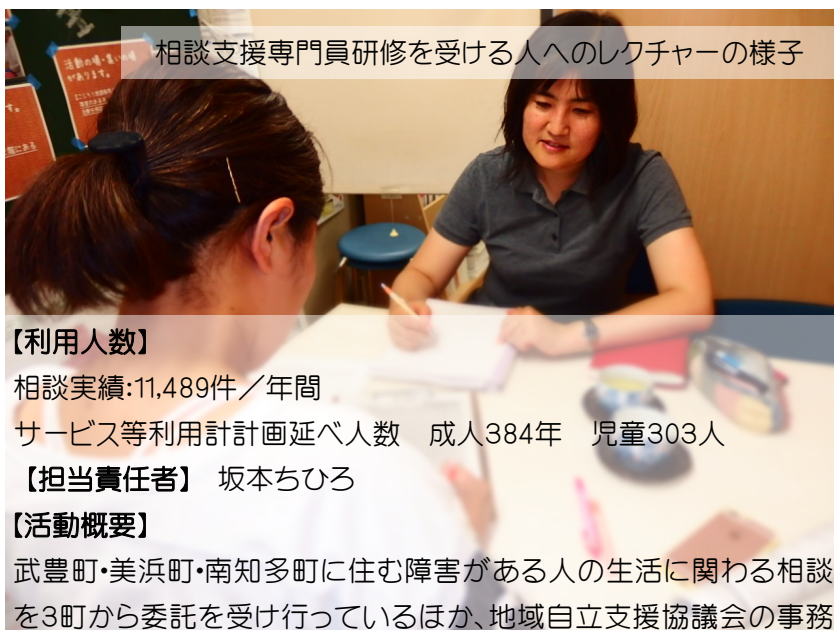
短期の成果(～3か月)
必要に応じ相談ができ、生活が安定しはじめる。

中期期の成果(～1年)
新たな課題が出てきても、相談することで安心できる。

長期(～3年)の成果
住民の障害理解が深まり、サービス以外の資源を活用しながら自分らしい生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



相談支援専門員研修を受ける人へのレクチャーの様子

【利用人数】

相談実績:11,489件／年間

サービス等利用計計画延べ人数 成人384年 児童303人

【担当責任者】 坂本ちひろ

【活動概要】

武豊町・美浜町・南知多町に住む障害がある人の生活に関わる相談を3町から委託を受け行っているほか、地域自立支援協議会の事務局を行っています。また、福祉サービス利用のための計画作成も行っています。

【2019年度の目標】

人員を増やし、多くのニーズに応えていく。また、相談員の余裕がでてくることで、丁寧な相談対応・協議会運営の充実をはかることができます。スーパーバイズ等の研修に参加し、困難ケースへの対応や人材育成に注力できる力をつけ、地域の社会資源開発にも力をいれていく。

【活動実績・得られた成果】

正規職員1名退職するも、同等の人員補充がなかったため、目の前のことをこなすことで精一杯な1年でした。その中でも、現に対応しているプラン作成者の更新時期を逃すことなく、対応することはできました。一方で、新規プラン作成については、お断りをしてきた1年となりました。委託相談の立場として、セルフプラン作成のフォロー等を実施して、サービス利用が滞らないように配慮はしてきたが、わかりにくさを生んでしまいました。また、対応の遅さ・その場しのぎの対応・スキルアップの時間の確保ができない等、反省すべきことが数多くありました。協議会に関しては、しくみの整理をしながら、効果的なやり方として、ワーキンググループのしくみをつくってきました。確実に進めていく一歩とすることができました。

④ホームヘルプ事業

ゆめじろう訪問介護事業所

(介護保険訪問介護事業、介護予防訪問介護事業)

活動の想い

住み慣れた町で暮らし続けることを応援したい！

対象

町内在住高齢者

活動内容

介護保険サービスとして高齢者の生活を支えるための訪問支援。

直接(～1ヶ月)の結果

ヘルパーが家庭に入り生活の援助を始める。新たな困りごとや課題が明らかになる。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーの援助を受けながら生活をする。

中期(～1年)の成果

出来ることは自分で、できないことはヘルパーと一緒にしながら生活の質が向上する。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活がヘルパーの援助を受けながら継続し、生きがいや目標が見つかる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



デイスサービスへの送り出しの様子

【担当責任者】 山田祐輔

【事業概要】

利用者さんの日常生活をお手伝いさせていただいています。住み慣れた自分の家(地域)で過ごしたいと言う利用者さんに寄り添い、生きていて良かったと思ってもらえる支援を心がけています。

【2019年度の目標】

訪問Aの受け入れ、外部研修を各自受講して持ち帰ってもらい、内部研修(サービス検討会)の充実を計画的に行う。

【活動実績・得られた成果】

介護:2456.9時間 訪問型独自サービス:804.66時間 訪問A:205.25時間

訪問Aを受け入れる事業所の限定があり、ゆめじろうでの受け入れや、介護から訪問Aへの変更。また、入院・入所・デイスサービスへの移行も多くみられた年であり、介護の時間数に伸びがなかった。昨年度掲げた、「訪問Aの受け入れ、外部研修の受講を行いサービス検討会での報告」については、計画的に行うことができた。常勤・登録ヘルパー含め、外部研修の参加を促すことにより1人1回は参加することができた。参加した研修内容をサービス検討会で発表することにより、サービスの質の向上、情報共有を有意義に行うことができた。訪問Aの受け入れも、2018年度に比べ68.75時間増加した。

ゆめじろう居宅介護等事業所

(障害者総合支援法居宅介護等事業)

活動の想い

障害のある人の社会参加や挑戦を寄り添って応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)
障害者

活動内容

自宅ヘルパーが訪問し、障害児・者の地域での生活を支えると同時に生活課題を明確にして課題解決のための支援を行う。

直接の結果

ヘルパーが家庭で生活の支援をしたり、社会参加支援を始める。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーが家庭で、日々の生活支援に加え、課題解決のための支援を受け始める。

中期(～1年)の成果

継続した支援を受け続けていける。ヘルパーの支援を受けながら課題解決力・生活力が付く。

長期(～3年)の成果

自ら課題解決に向かっていく力が付く。また、必要とする支援を発信できるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

学生ヘルパーも参加した交流会の様子



【根拠事業】居宅介護等事業、行動援護、移動支援

【担当責任者】 山田祐輔

【活動概要】

個人のニーズに合わせ、マンツーマン対応で障害のある方の日常生活・余暇活動を支援しています。

【2019年度活動目標】

生活を支える、余暇支援などの社会参加の手助けはもちろん、自己実現に向かっていけるような支援を行っていく。・定期的な人材確保と、ヘルパー1人当たり入れる利用者数を増やしていく。

【活動内容・得られた成果】

延べ713人／年間 延べ5379時間／年間

2018年度より、ヘルパー数はほぼ変わっていませんが2018年度より延べ人数と時間が微増しました。

内容面でも見直しを行い、余暇支援や社会参加、自己実現に向かっていけるような支援を目標に掲げ、ご本人やご家族と、支援中や面談の中でタイムリーな情報を聞くことができました。結果として、希望や課題に応える支援を行うことができました。また、学生ヘルパーとの情報共有や検討会議の場で、学生ヘルパーを中心に情報共有や検討会議を進めた結果、スタッフだけでは気づけなかった課題に気づき、支援を深めることができました。

その一方で定期的な人材確保の時間を確保できず、人材確保を十分に行うことができなかった他、行動障害のある方への支援を伸ばすこともできませんでした。

ひるじろう (生活介護)

活動の想い

どんなに重い障害があっても、その人らしい自己実現ができる活動や居場所が必要だ！

対象

町内在住(近隣町を含む)の重度障害者

活動内容

重度障害者に対し、それぞれの能力や意向に応じた日中の活動と居場所の提供を行う。

直接の結果

送迎等の支援を受けながら自分のペースでひるじろうに通い、活動に参加する。家族以外の人とのかわりが始まる

短期(～3か月)の成果

活動に参加するうちに自分の強み弱みが分かってくる。得意な活動にはやりがいもてるようになる。

中期(～1年)の成果

得意な活動に磨きをかけ、やりがいを持って取り組めるだけでなく、息抜きもできるようになる。

長期(～3年)の成果

やりがいをもって行える活動を共に行う仲間ができひるじろうが大切な居場所となる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。



【利用定員】 10人 平均利用人数 9.7人/日

【担当責任者】 出口 晋

【活動概要】

町内及び近隣障害者に対し日中のつどいの場・活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現を支援する。

【2019年度活動目標】

①仕事だけでなくみんなで楽しくできる余暇活動も行っていく。②一人一人に合わせた活動の見直しを行う。③体験的宿泊や緊急一時的宿泊ができるよう他部署と連携し体制を作る。④重度障害の利用者が安心して利用できるサービスとなるよう支援力の向上を図っていく。

【活動内容・得られた成果】

少しずつではありますが、前進のあった年でした。環境面では、活動スペースのエアコンの入れ替えを行ったほか、苦手な利用者同士の活動空間を分けるための間仕切りその他、休憩時間の落ち着ける場所の確保を行ったことで、皆が落ち着いて過ごしやす空間となりました。医療ケアが必要な利用者さんの受け入れのため、看護スタッフを複数確保し、3月より受け入れを行いました。結果として日々の健康管理や緊急時の準備の強化にもつながりました。その他、地域生活支援拠点の体験的宿泊として、ショートステイの利用が難しい利用者の宿泊支援を行いました。介護者の病気時のピンチにも緊急一時的宿泊で対応することができました。一方、目標として掲げていた、みんなで実施する余暇活動については十分に取り組むことができませんでした。

ひるじろう (就労継続支援B型)

活動の想い

障害のある人の「仕事がしたい」「社会の役に立ちたい」という思いを応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)の仕事をしたいたい障害者。仕事ができる可能性があるのに十分に力を発揮できていない障害者。

活動内容

障害者に対し、仕事を通じて社会参加・社会貢献をする場の提供を行うと共に、それに対し工賃を支払う。

直接の結果

ひるじろうへ通い、コロック作り・販売、整備事業など自分に合った仕事に取り組む。

短期(～3か月)の成果

ひるじろうに慣れ、仕事をしながらの生活リズムができる。

中期(～1年)の成果

お金に関心を持てるようになる。目標工賃1万5千円/月の達成

長期(～3年)の成果

工賃だけでなく、仕事そのものにもやりがいや誇りが持てるようになる。目標工賃2万円/月の達成

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

中部電力工事現場でのコロック販売



【利用定員】 10人 平均利用人数 7.8人/日

【担当責任者】 楯貫浩美

【活動概要】

町内及び近隣障害者に対し日中の活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現の支援を行う。

【2019年度の目標】

①工賃アップ・売上げアップのために新たな販売場所を探す。客単価の高い商品開発。

②仕事以外の生活の質を高める活動を行っていく。(運動、おしゃれ、身だしなみ、お化粧品・料理教室)

③個々の能力の活かせる仕事の創出

【活動実績・得られた成果】

2019年度は目標に掲げた、身だしなみ向上への取り組み(毎朝の自己点検)、講師の方を招いたお化粧品講座、料理教室を実施しました。他にも、食品製造に関わるものとして、衛生面向上についてみんなで話し合う時間を持ちました。

利用者の強みを活かした仕事づくりの観点から、字を書くことを得意な人に新たな仕事を提供することができました。得意なことに取り組むことにより、結果として作業意欲の向上につなげることができました。

販路拡大の視点から、2月より中電の工事現場での販売が始まりました。売り上げ向上の視点からは、地元産のかぼちゃやさつまいもを使った季節商品の販売も取り組みました。

こじろう (放課後等デイサービス)

活動の想い

障害のある子どもたちの地域の中で健やかな成長と家族を応援したい！

対象

町内在住の障害児(家族)

活動内容

障害児の放課後と長期休暇の活動と居場所の提供。

直接の結果

子：場所、人に慣れ落ち着いて過ごすことができる。親：自分の時間が持てることにより余裕ができる。子の家とは違う側面を知る。

短期(～3か月)の成果

子：こじろうに行くことが楽しみになる。親：安心して送り出すことができるようになる。

中期(～1年)の成果

子：好き嫌いがはっきりして自分から活動を選択し参加できるようになる。親：スタッフと信頼関係ができる。

長期(～3年)の成果

集団で過ごし、社会経験を積み上げることにより必要なルールが身に付きよい人間関係が保てるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



こじろう周辺のごみ拾いをする利用者さん

【利用定員】 10人(登録者31人) 平均利用人数 9.0人

延べ利用人数 1663人/年

【担当責任者】 榊原由起

【活動概要】

障害のある子どもたちが放課後や長期休暇を安全に楽しく過ごすための場所です。子どもたちが主体的に活動できることを目標にしています。

【2019年度の目標】

安定した運営を行うため学生以外のスタッフの確保も積極的に行っていく。また、新規利用者の受け入れとともに祝日(年に数回)と土曜日(月に1度)の開催を行います。また、学校、児童クラブ、行政、相談事業所、他の放デイ事業所との連携を進めます。活動面では、一人ひとりの希望や目標に沿った個別支援計画に基づいた活動を行っていくとともに地域のボランティア活動への参加も行っていく。

【活動実績・得られた成果】

2019年度は数年ぶりに小学1年生のお子さん4名の方をお受けした年でした。こじろうを利用させていただく前には保育園へ見学に数度行き、保育士さんから園での様子や活動について情報をいただきました。開催日は週四日で日にちを増やすことができませんでした。開催日は定員に近い数の受け入れをすることができました。また5月の連休は10連休という長い休みだったため、4日間開催をしています。11月には初めて「町民文化祭」に子どもたちの作品を出展し、来場みなさんにみていただいたり、こじろうのPRをすることもできました。子どもたちの活動としては懸案だった「地域ボランティア活動」をごみ拾いという形で行うことができました。この活動については引き続き行っていきたいと思っています。2020年3月は2008年度から12年間こじろうを利用してくださった方3名を含む4名の卒業生を

⑥福祉移送ボランティア事業

【根拠事業】 自主事業 【担当責任者】 山本浩人

【事業概要】 必要やむを得ない場合の車による移送

【活動内容・事業実績】

高齢者・障害者など移動制約者に対し、緊急時等やむを得ない場合に限りゆめじろうの車を使い無償で移送を行いました。

【活動内容】障害者の移動における緊急時（急な天候悪化、急な体調悪化、パニック時や発作時等）に運転手を出し、車での移動を行いました。

⑦次世代育成事業（子育て支援事業）

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 瀧本智恵美

【事業概要】 託児等を会員同士の助け合いで実施する。

【活動内容・事業実績】

分かち合いサービスにて実施（参照）

⑧高齢者障害者に対する社会参加促進事業

喫茶「ゆめひろば」

直接の成果

町民がゆめひろばを利用し、食事やお茶を飲みながら話をする。

長期成果

町民会館に、食事をしたりお茶を飲みながら仲間との交流や出会いの場が確保される。

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 鳥居久子

【事業概要】

食の安全を意識した手作りの食事、飲み物を提供しています。また、住民の交流の場として快適な場所作りを大切にしています。

【2019年度の目標】

昨年度新たに加わったスタッフがシェフとして自信をもって行っていけるようサポートしていきます。また、引き続きゆめたろうプラザに訪れる人たちがホッとできる空間作りに努めていきます。

【活動実績・得られた成果】 概ね週6日営業

就労継続支援B

P12を参照 ひるじろうの活動の中で紹介。

フリースペース事業

【事業概要】

事業所のいろいろなスペースを利用して、地域の方が立ち寄ったり、ボランティアとして参加いただいたりする事業を提供しています。「こんな事ができるといいなあ。」や「こんなことで困っている。」「このくらいの手伝いはできるわよ。」などの声を大切にいろいろな活動を少しずつ行っています。

ゆめじろう茶屋

自主事業

活動の想い

地域で孤立することがないように住民同士のつながりを大切にする居場所を作りたい！

対象
町民

活動内容

地域住民が気軽に集える場所と活動の提供をする。

直接の結果

地域住民が日常的に茶屋に集い活動に参加する。

短期の成果

茶屋に集う者同士の交流が生まれ、新たな関係ができる。

長期の成果

茶屋を活用して地域住民の支えあいの活動が展開される。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

サロンメンバーで自宅にてマスクを作っていました。

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 小藤あけみ

【事業概要】

年齢・性別・国籍問わず気軽に参加しています。

情報交換や物々交換、新しいつながりなど「つどい・つながる」場所です。

【2019年度の目標】

毎日開いている「ゆめじろう茶屋」を目指して新しい集まりを計画していきます。

また「オレンジカフェ」は、これまでの運営メンバーで実行委員会を立ち上げ、知多市の「ゆめサポート」の助成金をいただき実施します。できるだけたくさんの方に来ていただける事をめざしていきます。地域の問題を地域の力で解決していくためには、地域の人が集まり気軽に話せる場所が必要です。「ゆめじろう茶屋」がその場所になる事をめざしていきます。

【活動実績・得られた成果】

「オレンジカフェ」は月1回、「おしゃべりサロン」は毎週火曜日、「さをり織り」は月2回開催することができました。地域の方々が集う場所として定期的な参加者が気軽に集まることができました。「オレンジカフェ」は、1年間の活動を「知多信用金庫のゆめサポート」の支援を受け、オレンジカフェを今後継続して行っていくにあたっての課題やおむねの必要な経費について検討することができ、来年度以降は開催の主体を変更して検討しています。

なお新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年3月よりすべてのサロンを中止しました。

⑨地域福祉啓発・研修事業

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

高齢者福祉および障害者福祉にかかわらず地域福祉に関わる活動やイベント等を開催しています。毎年9月の第1土曜日に行っている夏祭り(平成28年度からは龍宮まつり)、日本福祉大学と協働で実施するサービスマーケティング、武豊町との協働事業で始まったきのこプロジェクト、フードバンクちたの他、ゆめじろうくん(着ぐるみ)やコロケカーによる地域イベントへの参加など多岐に及びます。平成30年度は、武豊町提案型協働事業を活用し子どもの居場所を考える『たけのこプロジェクト』を行いました。

たけのこプロジェクト (武豊町提案型協働事業)

活動の想い

美味しい顔と時間を共有することで困ったときにSOSが出せたり助け合える関係と地域力を作りたい。

活動内容

月に1回、地域住民が集まり一緒にカレーを食べる機会を作り美味しい顔と時間の共有をすることで

直接の結果

地域住民と一緒に食事することで顔がつながる。

短期の成果

顔がつながり名前も覚え、気軽に声掛けられる関係になる。

長期の成果

困ったときにSOSが出せたり、助け合える関係ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

【根拠事業】 武豊町提案型協働事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

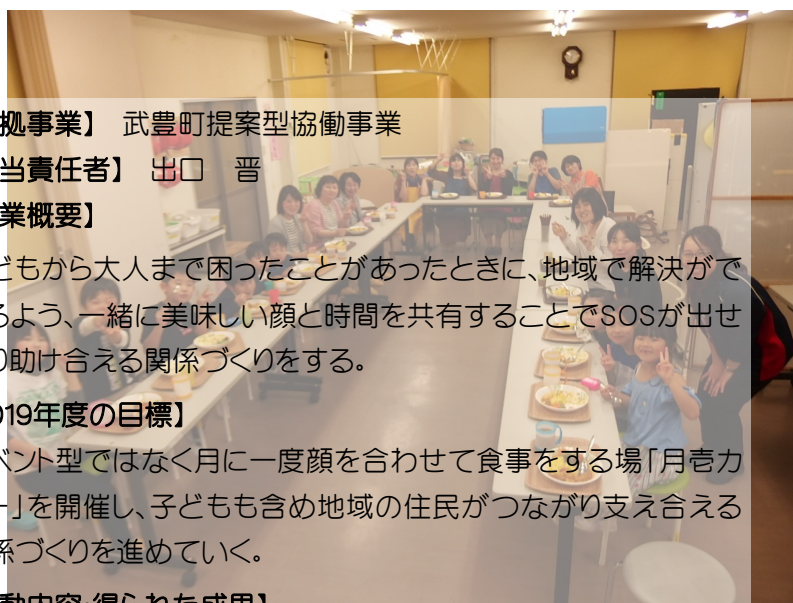
子どもから大人まで困ったことがあったときに、地域で解決ができるよう、一緒に美味しい顔と時間を共有することでSOSが出せたり助け合える関係づくりをする。

【2019年度の目標】

イベント型ではなく月に一度顔を合わせて食事をする場「月替カレー」を開催し、子どもも含め地域の住民がつながり支え合える関係づくりを進めていく。

【活動内容・得られた成果】

4月から2月まで毎月1回(コロナウィルス感染症が発生する前まで)月替わりで、地域の人と一緒にカレーを食べ、お話をしました。4月インド風チキンカレー、5月バターチキンカレー、6月スープカレー、7月満腹カツカレー、8月きもだめし&学生カレー、9月お月見ドライカレー、10月グリーンカレー、11月旬の野菜カレー、12月カレーパンを作ろう、1月カレーうどん、2月きりたんぽカレー鍋。毎回来てくれる、親子連れやご近所さんの他、学生や一人暮らしのスタッフなど、「みんなで食べると美味しいね!」が決まり文句で、つながりを感じられる時間を過ごしました。運営にかかる費用は参加者からの参加費(1回300円)とフードバンクからの食材提供やいただいた食材も活用し購入しました。



ゆめじろうくん・コロッケカーの出動(自主事業)

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

啓発活動の一環としてキッチンカーの出動やゆめじろうくんがイベントに参加したりしています。

【2019年度の目標】

地域からの要望やイベントを盛り上げるために積極的に出動し、コロッケ販売を行います。また、地域の要望に応えるため対応できるスタッフの育成も行っています。

【活動内容・得られた成果】

2019年度は天候不順もあり、イベントが軒並み中止となりました。また、年明けからはコロナウィルス感染症の影響もありわずか4回(下記)にとどまりました。

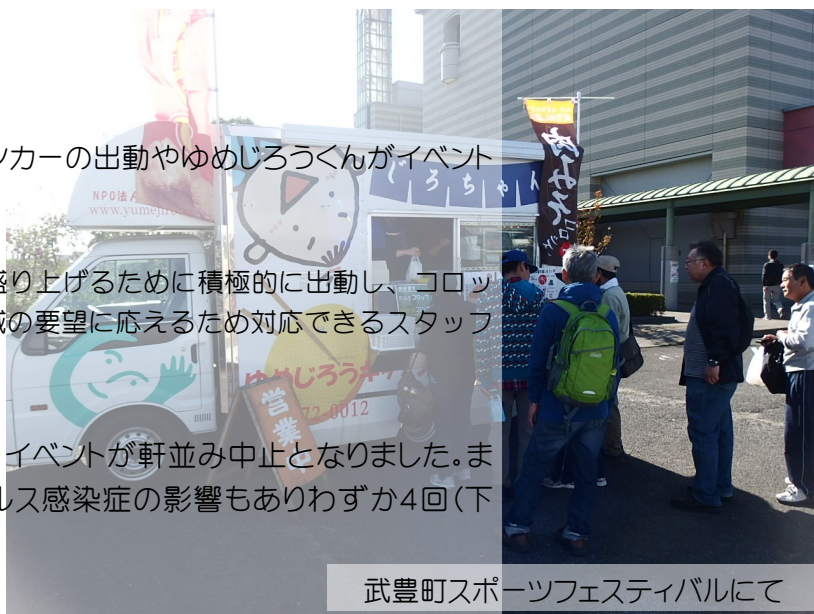
5/19(日)中央公民館祭り

7/13(土)大足じゃ車祭り

11/17(日)武豊町スポーツフェスティバル

11/24(日)緑区フェスタ

回数が少なかった分、イベント対応ができるスタッフを増やしていくという目標も十分に達成することができませんでした。



武豊町スポーツフェスティバルにて

ゆめたろうスマイルマラソン応援(自主事業)

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

平成25年度からは、「一緒に走ろう」という参加型の活動から転じ、「みんなで応援しよう」という町のイベントを地域住民と一緒に応援し盛り上げる活動を行っています。

【2019年度の目標】

ゆめたろうスマイルマラソン応援団：今年もマラソンコースの名ポイントでの応援のほか、運動公園前地点でのエイドステーションを行います。応援の輪を少しずつ広げていく。

【活動内容・得られた成果】

当日は朝から小雨の降る天気でしたが、力走するランナーたちに声援とエイドステーションで水とスポーツドリンクの提供を行いました。昨年の反省のもと、エイドステーションでの飲み物を多めに確保したにもかかわらず、後半のランナーには不足する事態となってしまいました。あいにくの天気ではありましたが、市原地区の有志の応援団の方たちも大きな声で声援を届けていただきました。



声援のために集まった市原地区応援団のみなさん

フードバンクプロジェクト（自主事業）

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口佳江

【事業概要】

セカンドハーベスト名古屋、サポート知多、日本福祉大学、常滑市社会福祉協議会と協力し、大規模ショッピングセンターや食品会社などからまだ食べられるのに捨てられてしまう食品をもらい受け、生活困窮者など必要としている人たちに届ける活動です。

【2019年度の目標】

引き続き生活困窮者の方や必要としている団体に必要な食品をお届けします。フードバンクの仕組みが継続されるよう、セカンドハーベスト名古屋への金銭的な支援についても積極的に行っていきます。

【事業内容・得られた成果】

今年度は年間46回、延べ184家庭・団体へ食品の配布を行いました。

新規の配布先は1家庭・1団体ありました。また、団体内でフードバンク活動の引継ぎができるようマニュアルの作成を行いました。

会員の皆様から頂いた、プロジェクト協力金は、主に食品を運搬作業を行うひるじろう(生活介護)利用者さんの工賃に使用させていただきました。



サービスラーニング（日本福祉大学との協働事業）

【根拠事業】日本福祉大学との協働事業

【担当責任者】出口 晋、西川百合

【事業概要】

地域福祉サポートちたを通じて実施する日本福祉大学との協働事業。「フィールド実践演習」という科目の中で実施され、NPO法人の活動を通して実習することで、学生の「市民性」を育み、自らの意思をもって関わっていく力を養っていくことを目的としています。

【2019年度の目標】

学生が市民活動や福祉事業の実態を知る入口として、学びの場を提供するとともに、第三者に団体の活動や社会課題の解決の実践を伝える方法の学びの場とする。

【事業内容・得られた成果】

月々カレーとタイアップし、夏休みこども企画「きもだめし & 学生カレー」を企画運営しました。子どもたちのニーズや夏休みの問題の把握に始まり、地域の神社の下見やを活用させてもらうための許可など、実施に向けていろいろな手続きや配慮があることを実地で学びました。当日は、定員を上回る応募があり、大盛況のうちに終わりました。このほか、ひるじろうやこじろうなどの福祉サービスの現場体験を中心とした学生の受け入れも行いました。



生まれて初めての「きもだめし」でおそろおそろ楽しむ子供たち

きのこプロジェクト（武豊町提案型協働事業☐自主事業）

【根拠事業】 自主事業（前：提案型協働事業）

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

自然公園一帯の活性化活動

自然公園パトロール（重度障害者による）、マップ・案内版の作成、清掃活動、自然公園を使用したイベントを行う活動です。実施にあたっては町民からの協力金（一口500円）を募ります。

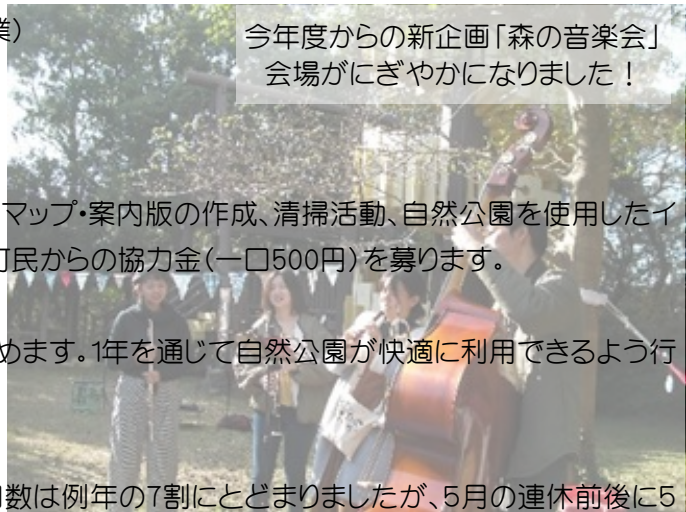
【2019年度の目標】

年間予定を立て計画的に事業の実施を進めます。1年を通じて自然公園が快適に利用できるよう行政と協力して管理を行っていきます。

【活動内容・得られた成果】

今年度は、猛暑のためパトロールの実施回数は例年の7割にとどまりましたが、5月の連休前後に5日間、10月に7日間の草刈りを実施しました。また、12月1日（日）にイベント「自然公園を楽しもう！」を開催し、ウォーキングスタンプラリーの他、森の音楽会、森のカフェ、森の工作教室、ハンモックガーデンをおこない、親子連れから、高齢の方まで約50名の方に参加いただきました。プロジェクト協力は、主に草刈り用燃料、ナイロンカッターに活用させていただきました。イベントにかかる費用はイベント参加者からの協力金で賄いました。

今年度からの新企画「森の音楽会」会場がにぎやかになりました！



龍宮まつり

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

盆踊りや運動会など地域のイベントがすくなくなってきた富貴地区において地域の人々が参加しつながりあえるお祭りの開催。

【2019年度の目標】

野菜カフェYa～Ya～や富貴地区の地縁団体や住民と協力し、企画段階から関わり運営に主体的に関わっていきます。地域の恒例行事に位置づけられることを目指します。

【活動内容・得られた成果】

今年は天候に恵まれ、盛大に行うことができました。新たに地域の子供会有志の店も加わり、これまで以上に地域の人と一緒に作り上げるお祭りとなりました。ステージイベントでは、武豊町制65周年を記念して作られた『たけとよスマイル体操』も披露され、小さな子供からお年寄りまで元気に体操を行いました。振り返りでは、これからも地域の中で続けていける祭りとなるよう、若い世代を巻き込んでいくことの必要性を実行委員一同確認をしました。



ゆめにてい

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】西川百合

【事業概要】

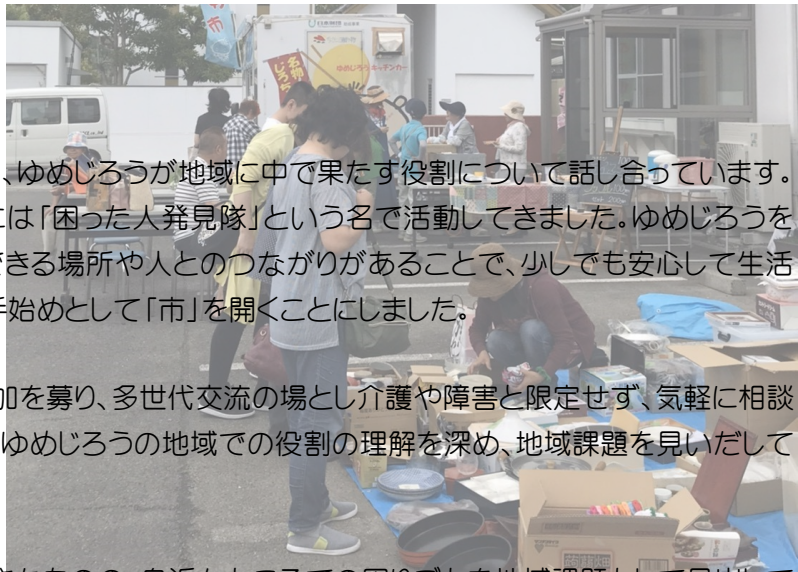
昨今地域力の低下が言われる中、ゆめじろうが地域に中で果たす役割について話し合っています。プロジェクトとして始動する前には「困った人発見隊」という名で活動してきました。ゆめじろうを知ってもらい、困った時に相談できる場所や人とのつながりがあることで、少しでも安心して生活ができるのではないかと考え、手始めとして「市」を開くことにしました。

【2019年度の目標】

定期的な開催や、地域住民の参加を募り、多世代交流の場とし介護や障害と限定せず、気軽に相談できる場としての役割も果たし、ゆめじろうの地域での役割の理解を深め、地域課題を見いだしていく。

【活動内容・得られた成果】

最初に掲げた年2回の開催ができたものの、身近なところでの困りごとを地域課題として見出していくという当初の目的までは至らなかった。そんな中、出店してくださる人の輪も広がり、毎回楽しみにされている人も増え、賑やかな集いの場に定着しつつあります。コロッケ販売やフリーマーケットでの会話の中で、困りごとを聞く機会や生活ぶりを知る機会もありました。一方通行ではない互いを知る大切な時間がそこにはありました。双方が笑顔になる時間や幸せを感じる空間の共有ができていたと思います。



⑩短期介護事業(ショートステイ)事業

【根拠事業】自主事業・地域生活支援拠点(体験的宿泊・緊急一時的宿泊)

【担当責任者】山田祐輔

【事業概要】

地域で生活する障害者や介護の必要な高齢者等の宿泊支援

【2019年度の目標】

サンワコーポ(GH)、ひるじろう(生活介護・就労B)、こじろう(放課後デイ)の3カ所を活用しゆめじろうで実施する障害児・者事業所にて地域生活支援拠点の①②の宿泊支援を行っていきます。緊急時や重度障害にも対応できるよう、実施体制の充実を図ります。

定期的な利用希望にも対応できるよう宿泊スタッフの確保育成を行っていく。

【活動内容・得られた成果】

サンワコーポ、ひるじろう、こじろうにて、体験的宿泊と緊急一時宿泊を受け入れることができた。体験宿泊では、ご家族からの宿泊体験の希望に応じグループホームスタッフでの対応や、部署ごとに関わりのあるスタッフを配置することにより宿泊を実現することができた。緊急一時的宿泊については、成人・児童に関わらずそれぞれ関わっているスタッフが対応し、慣れたスタッフ・活動場所を活用することにより混乱を招くことなく実施することができた。

残る課題としては、緊急が起きた時のスタッフ配置やベテランスタッフでの対応が主となり、1人に負担がかかる配置となってしまったこと。誰もが緊急になりうるということを想定したスタッフ体制が必要となる。

⑪障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

居住サポートいえじろう(共同生活援助)

活動の想い

障害のある人の親から離れて暮らす挑戦を応援したい！

対象

町内在住の障害者

活動内容

障害者のための家庭的で社会とのつながりのある住まいの提供。

直接の結果

グループホームでの生活を始めるとともに地域行事への参加、ボランティアの方との交流会に参加し始める。

短期(～3か月)の成果

グループホームでの生活に慣れ、地域の方やボランティアの方との交流にも慣れる。

中期(～1年)の成果

グループホームを利用する日が増え、ボランティアの方と一緒に過ごすことができる。

長期(～3年)の成果

安定した生活をグループホームで送る。地域の方に存在を知ってもらう。ボランティアの方と一緒に外出ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【根拠事業】共同生活援助 定員8人

【担当責任者】 山本浩人

【活動概要】

利用者さんが「ただいま」と安心して帰宅できるお家です。障がいのある方が地域の中で自分らしく生活が送られるようサポートしています。

【2019年度活動目標】

各利用者さんのニーズの再確認を行う。特に週末の利用について、必要な方については週末利用の回数を増やしていけるようにする。地域支援拠点の新規受け入れの為に体制を整える。

【活動内容・得られた成果】

実人数85/年 延べ利用数2,052/年

2019年2月に利用者が1人退居したことにより、7人での営業となりました。

「ニーズの再確認を行い必要な人は土日の利用日数を増やす」という目標については、面談等でニーズの聞き取りを行った結果、土日の利用が増えました。地域生活支援拠点の受け入れ体制は整いつつあるものの、十分に周知がされていないことマッチングの問題もあり実績を上げることができませんでした。予想される震災に備え、年に2回、自主避難訓練を行いました(地震・火災1回ずつ)。いざという時のためにスムーズに避難できるよう、皆さんが真剣に取り組むことができました。その他ホームの居住地である緑区の防災訓練にも参加しました。